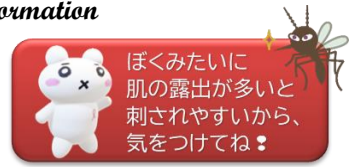




令和4年(2022年)第31週 2022年8月1日(月)~2022年8月7日(日)

# 熊本市 感染症発生動向調査 速報



## 今年も日本脳炎注意報が発令されました

熊本県では、日本脳炎の流行を予測するため、厚生労働省策定の実施要領に準じて、ブタ(県内産肥育ブタ)の血清中の日本脳炎ウイルス抗体検査を行っており、8月1日に採取したブタの血液を検査した結果、日本脳炎に注意が必要な基準に達し、日本脳炎注意報が発令されました。蚊に刺されないなど、感染予防に努めましょう。

### 1.日本脳炎注意報の発令基準

「日本脳炎」国立感染症研究所ホームページ

ブタから採取した検体(血液)について、日本脳炎の2ME感受性抗体(2週間以内に感染したことを示す抗体)を保有するブタが1頭でも検出された場合、または、日本脳炎ウイルス遺伝子を保有するブタが1頭でも検出された場合。(ブタは日本脳炎ウイルスを増幅すると言われてています。)

### 2.検査結果(令和4年(2022年)8月1日採血)

検査頭数16頭のうち、日本脳炎の2ME感受性抗体を保有するブタ9頭。

### 3.日本脳炎について

日本脳炎は、蚊が媒介するウイルスによる感染症で、日本では、夏から秋にかけて患者が発生します。ウイルスを保有した蚊が、免疫のないブタを吸血するとブタは感染し、ウイルス血症(感染2~3日後から3日間程度持続)を起こします。このウイルス血症時のブタを吸血した蚊がウイルスを媒介するようになります。人は、日本脳炎ウイルスに感染しても多くは不顕性感染(何も症状が出ない)ですが、推定で100~1,000人に1人が発病するとされています。発病する場合は、約6~16日の潜伏期の後、時に40℃以上の高熱、けいれん発作、昏睡状態といった症状が1週間くらい続くことがあります。このような症状があれば早めに医療機関を受診してください。なお、蚊は気温が15~32℃で活動するとされており、少なくとも10月頃までは注意が必要です。

### 4.感染を防ぐためには

- ・日本脳炎ウイルスの媒介蚊に刺されないように心がけましょう。
- ・蚊の多い場所においては、長袖、長ズボンを着用し、虫除け剤を使用しましょう。
- ・休養、栄養、睡眠を十分にとり過労を避け、体力の保持に努めましょう。
- ・日本脳炎ワクチンを接種することにより、日本脳炎にかかりにくくなります。
- ・家庭周りの小さな水たまり(植木鉢の皿、バケツなどの水のたまりやすいもの)をなくし、蚊の発生源を減らしましょう。



年	患者発生数(人)	
	県内	全国
平成28年	0	11
平成29年	0	3
平成30年	0	0
令和元年	0	9
令和2年	0	5
令和3年	0	3
令和4年(本年)	0	1

期 間		2022年 30週		2022年 31週	
		7/25~7/31		8/1~8/7(最新)	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ	➡	0	0.00	0	0.00
RSウイルス感染症	➡	1	0.06	4	0.25
咽頭結膜熱(プール熱)	➡	3	0.19	2	0.13
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	1	0.06	0	0.00
感染性胃腸炎	➡	31	1.94	31	1.94
水痘(みずぼうそう)	➡	1	0.06	1	0.06
手足口病	➡	8	0.50	8	0.50
伝染性紅斑(りんご病)	➡	0	0.00	4	0.25
突発性発しん	➡	6	0.38	6	0.38
ヘルパンギーナ	➡	1	0.06	2	0.13
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	➡	0	0.00	0	0.00
急性出血性結膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)	➡	6	1.20	5	1.00
細菌性髄膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
マイコプラズマ肺炎	➡	0	0.00	0	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	➡	0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡	0	0.00	0	0.00